



office空と海
平井 吉信

中小企業診断士

平井吉信 コーナー

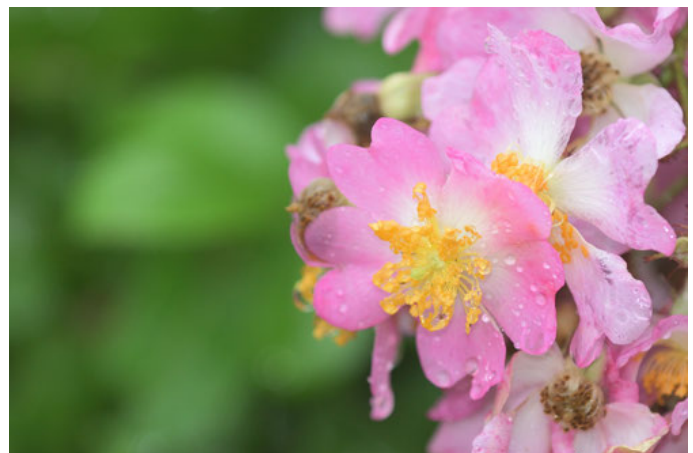
4年越しの時間をかけて探した天真爛漫な野生のバラ 母川にて

物語は、2013年6月の徳島新聞「母川流域が希少野生種のバラ『ツクシイバラ』の全国指折りの群生地であることが、専門家によって確認された」の記事に遡る。

大きな桃色の花弁と紅の縁取りを持った愛嬌あるはなやかさを持つ野生のバラ。しかし、河原の雑草駆除の際に刈り取られてしまうこともあるという。そこで、毎年この季節になると、母川流域をくまなく探し続けた。虫除けスプレーで蚊ダニ対策、ビニール系の素材の服に身を固めて河川敷の藪を探し歩いた。けれど、花は見

つからない。華やかさをふりまく姿態から見つけにくい花ではないはず。

雨に煙る母川のせりわり岩の付近（オウナギの生息地）を見学。雨を待ちわびた植物、木々の芽、そして虫たちも観察。食べられる木の実、野いちご、アケビの群生も確認。濃密な河畔林の藪へ分け入るのは勇気と装備が必要。湧き水を集めて悠然と河畔林を洗う母川の流れば、四国でも似たような川が見当たらない希少



な特性。オオウナギやホタルだけではない生態系の価値に地元は気付いて欲しい。傘を差していても湿潤な霧雨で身体が冷えてきた。みずみずしい自然に触れていると、心がどんどん晴れやかになっていく。今年もツクシイバラが見当たらなかったけれど満足した。帰ろう。それなのに、いましばらく河川敷を探していると。

遠めにちらりと見えたあでやかな色彩。雨の中、むせ

かえるような花たちの息づかい(匂い)。妖艶でいて田舎娘の笑顔のような屈託のなさ。4年の歳月をかけてようやくたどりついた。

海陽町としては、その稀少な生態を守りつつ、保全と観光の両立をめざしたい。放置すると、日本有数の群落地なのに善意の草刈りか河川整備か盗掘かで消えてしまいかねない。まずは表示を行い柵などで囲い、周辺には太陽光発電式の監視カメラを付ける。アクセスのサポート(駐車場や生息地への手すりや階段など)を適宜行う。海部川清流保全条例を、海部川生態系保全条例としてアツブレード。地元

の学校も巻き込んで生態系の意義の啓発と保護活動を行う。全国からツクシイバラを見に来る人たちのために



(きつ)とそうなる。第二級の観光資源なのだから)観光ボランティア(生態系保全の啓発)や地元の監視ボランティアを育成、配置。その意識の高さが、この地を宝物にするとともに観光と生態系保全に資するのではないだろうか。

